

# まちのわだい

Town Topics

## 空手道市内小学生が世界で活躍

JKAアジア・オセアニア大会3位・銅メダルの  
館野風人さん市役所訪問 9月2日

上妻小学校3年の館野風人さんが、8月22日にタイ・バンコクのインドア・スタジアムで開催された空手道の「JKAアジア・オセアニア大会」9歳男子・組手で見事3位・銅メダルを獲得しました。館野さんは9月2日、家族と一緒に市役所を訪れ、稲葉市長に試合の結果などを報告しました。同大会は、アジア・オセアニア地域から16か国が参加。館野さんは、9歳男子の形と組手の2種目に出場しました。試合では「緊張したけど、うまくできた」と話す館野さん。本番前に、いつもお父さんと確認する3つの言葉「先手必勝、攻撃は最大の防御なり、3秒以内に攻撃」を思い出して試合に臨みました。「本当は、優勝したかった」と3位・銅メダルの結果に悔しさをにじませる場面もありましたが、11月30日に神奈川県で開催される関東大会では「必ず優勝したい」と力強く意気込みを語りました。



稲葉市長と賞状を手にする館野さん(左)

## 戦後70年 戦没者慰霊

下妻市遺族会「忠魂碑巡拝」9月27日

第2次世界大戦で亡くなった市内の戦没者は1,100人に上り、昭和30(1955)年頃を中心に、市内各地区には戦没者の名前を刻んだ忠魂碑が建立されています。下妻市遺族会は、戦後70年を記念して、市内12箇所建立されている忠魂碑を巡拝し、戦没者を慰霊しました。慰霊巡拝は同会役員13人が早朝からバスで移動し、各地区で集まった遺族の人たちと共に花を手向けて手を合わせました。飯泉正夫会長は「二度と戦争が起こらないようにしていかなければならない。若い世代の方には、大戦の経緯を一人一人が認識し、戦争に対する意識を少しでもいいから持ってほしい」と戦争のない世界を切に願っていました。



戦没者を慰霊する参列者たち(上妻小学校南側)



稲葉市長に現地活動の抱負を語る関さん(右)

JICA(ジャイカ:国際協力機構)ボランティアとして10月5日から2年間、アフリカ大陸南東部のモザンビークに派遣される関朱美さん(半谷)が、稲葉市長を表敬訪問しました。関さんは、モザンビークの首都・マプト市役所の廃棄物処理・衛生局に配属され、近年の経済発展で人口増などにより課題となっている、ごみ・廃棄物処理を担当する予定。環境教育隊員として学校などで環境教育や3R活動の推進にも取り組みます。関さんは「国際協力が一番世界平和につながると思う。一人一人の力は小さくても国際協力が世界の未来をつなぎ、環境教育は未来につながるものと信じて活動していきたい」と抱負を語りました。

## 火の粉舞い 災いを退ける

炎の奇祭「タバンカ祭」9月12・14日

大宝八幡宮で9月12・14日の夜、炎の奇祭「タバンカ祭」が行われました。応安3(1370)年に同敷地内で出火した際、畳と鍋蓋を使って火を消し止めたという故事を戯曲化した祭りとして受け継がれてきました。「タバンカ」の由来は祭りの中で大たいまつを焚いて畳と鍋蓋を勢よく石畳に叩きつけた時の「バタン、バタン」という音から起こったと伝えられています。たいまつを焚いて火の粉を浴びると災いを免れるといわれ、たいまつを持った白装束姿の若者が境内を駆け回ると参拝客からは歓声があがっていました。写真撮影に来た阿見町の60代男性からは「炎のイベントは珍しい。炎が流れるような写真を撮りたい」と話が聞きました。



大きな炎を持って走り出す白装束姿の若者

## 長寿を祝い 元気を願って

長寿祝福 9月15・16日

敬老の日(9月21日)にちなみ、稲葉市長は9月15・16日の両日、平成27年度中に100歳以上になる市内の長寿者宅や介護施設等を訪ね、長寿を祝いました。市内で100歳以上になる方は8月1日現在で26人。稲葉市長は長寿者宅などを順次回り、お祝いの言葉とともに記念品の毛布を手渡しました。「身のまわりのことや花の世話は、自分でやっています」と日々の健康ぶりを話す飯田西之助さん(原)は満105歳。市内で最高齢となりました。県内では男性2位の長寿者になるとの話題に「そしたら1位を目指さないかね」と笑顔でした。



100歳を迎える長寿者に内閣総理大臣からの祝い状を贈呈する稲葉市長(9月15日、愛宕園で)

## 「交通事故無し!!(梨)」を合言葉に駅でキャンペーン

関鉄レールファンクラブが交通安全運動に一役 9月19・20日

関鉄レールファンCLUBは、同会が進める踏切事故撲滅「停まってお願い」キャンペーンの一環として、秋の交通安全運動(9月21~30日)を目前に「交通事故無し!!(梨)」を合言葉に、騰波ノ江駅でキャンペーンを行いました。関鉄レールメイトの守谷小絹さんが9月19日、同駅の利用者に「下妻産の美味しい梨です。交通事故無し(梨)をお願いします」と、同駅近くの果樹農家から無償提供を受けた梨を配りながら、交通安全を呼び掛けました。同会の十文字義之会長は「豪雨災害に見舞われた常総線ですが、こんな時こそ、駅の機能を普段どおりに見せることが私たちの使命と考え、当初中止していたステーションギャラリーも開けることにした」と話し、「鉄路の再開が被害に遭われた方々や心配された方々に対して、心の拠り所になれば」と被災地の復興を願っていました。

## 住民の親睦を深める夏祭り

砂沼パークタウン自治会 9月5日



スイカ割りに挑戦する参加者

砂沼パークタウン自治会で、毎年恒例の夏祭りが開かれました。この祭は、新興住宅地である同自治会が新たな住民を含めて親睦を深める機会をつくろうと始められたもので、スイカ割りや花火などの催し、飲食屋台で食事をしながら会話が盛り上がるなど、子どもから大人まで一緒に楽しみました。